

情報公開文書

適応外使用する医薬品等の名称	アスピリン
本医療の対象となる方	①抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の妊婦 ②妊娠高血圧腎症既往の妊婦
実施内容	内服（低用量アスピリン療法）
対象診療科	産婦人科
目的・意義	①アスピリンは妊娠 28 週以降は禁忌ですが、抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の診療ガイドラインでは必要性を十分検討したうえで妊娠 36 週までの低用量（100 mg）投与が推奨されています。 ②適応外使用ですが、妊娠高血圧腎症の再発予防目的で、妊娠 12 週以降の低用量アスピリン投与が推奨されています。
想定される不利益と対策	・ 12 週までの内服で催奇形性の可能性があります。対策はありません。このため、母児の利益が胎児の有害事象の状況を上回ると考えられる場合に限り投与します。 ・ 出血の可能性がありますので、分娩の 1-2 週間までに中止します。
本医療の承認について	本医療の実施については院内規定に基づいて審査を受けて、承認されています。
本医療についてご了承いただけない場合	本医療について、あなたまたは代理人の方にご了承いただけない場合は、下記連絡先までお申し出ください。
連絡先	本医療に関するご質問は下記へお問い合わせください。 〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学病院 医療安全管理部 電話番号 092-801-1011（代表）